

# あっぷるかわら版

## 8月号



### HEARTLAND 人の中に・街の中に

### Anthology Episode 3

### 【1年間よう頑張ったな】

「もう無理だ止めよう」HEARTLAND立ち上げの頃、一度だけそんな風に答えを出した時がありました。ようやく辿り着いた北島田の活動拠点、そして集い始めた様々な障害や病、訳を抱え持った「彼ら」クッキングハウスと称された夕食会は、毎日毎日16:00から21:00頃まで開かれていました。「今晚のご飯は何にするで」ポケットからそれぞれが¥300を出し合っただけの夕食作り、近くのスーパーに買い物に出掛け調理・そんな風景がやがて「働く場」としてのお弁当製造販売あっぷるへと様を変えて行きました。大きな基盤も無く大きな後ろ盾も無い一つの活動は、経済的にも脆弱な上、寄せ来る様々な軋轢や北風の中、たじろぐ様な日々と常に隣り合わせに在りました。理不尽で先行きの見えない日常の連続に未来を夢見る力さえ枯渇し始めていました。

当時、愛媛県精神保健福祉センターのPSWとして在職していた徳永佳勝さん。「家族会=徳永」その名を全国に知らしめていたその人は、精神病院在職時より僕にとっての「憧れの人」でもありました。HEARTLAND設立の草案を抱え訪ねた松山、そして全ての経緯や状況を伝え行く日々、不透明な日々を支え励まし続けてくれたのが徳永さんでした。冬枯れの進みゆく歳末を、故郷の京都に包まれて過ごした数日、「もう無理だやめよう」導き出した一つの結論を抱えながら徳島に帰り着きました。一番お世話になっていた徳永さんに最初にその旨を伝えなければ…そう想いながら国道沿いの公衆電話に立ち寄ったのです。味気ない呼び出し音が途切れたと同時に聞こえた徳永さんの言葉「1年間よう頑張ったな…」用意してあったはずの言葉は宙を舞い、その一言を発する事が出来ませんでした。後はただ涙もなく涙がこぼれ落ちた電話ボックスの箱の中、あらためて小さな「覚悟」を決めた瞬間でした。受話器の向こうの言葉が「無理無理、もうやめたらええんじや」そんな言葉であつたら…今この場所の日常は無かつたはず…くずれそうな一つの覚悟が、もう一度背筋を伸ばしたあの瞬間優しく誘うように「今」へと結びつけられて行ったのです。

## あっぷるメンバーからの言の葉

あっぷるに毎日通ってきているメンバーからのメッセージを添えます。



暑い中あっぷるに御来店頂きありがとうございます。私が18歳前後に憧れた歌手がいます。当初(安室奈美恵、スーパーモンキーズとしてグループで活動していました。歌って踊れてすごいなって思いました。そして、4人グループ(MAX)になり、ファンとして好きになった今も踊ってみたりしています。当時は1980年前半~1990年後半のバブル時代、茶髪、フリル付きミニスカートにルーズソックス、厚底ブーツを履いたり、化粧を真似してプリクラ撮ったりしていました。パラパラにポケベル、電話番号だけでメッセージ打ったり、懐かしく感じます。今ではスマートフォンで検索して調べたり進化していますが、あれから時代は変わったんだと感じました。(ホール担当 M.I)

徳島にくる前は、スーパーで仕事したり、縫製工場で働いていました。長くは続かなかったです。そして、徳島に引っ越ししてからあっぷるで働き出して今年の6月19年になりました。自分でも長く続くとはおもわなかったです。私は、あっぷるで仕事が出来て幸せです。私は店頭販売をしています。(店頭担当 Y.K)

私は子供のころ、大人になったら仕事出来るのかなと思っていました。あっぷるを知ったのは知り合いの人から言ってくれました。そこからずっとあっぷるで頑張っています。給料がもらえて嬉しいです。これからも頑張ります。(お漬物担当 B.Y)



裏面もあるよ

# HEARTLAND 人の中に・街の中に

## Anthology Episode 4

「時は目に見えるものではないのだから、HEARTLANDの19年を机の上に積み上げることはできない…」そんな感傷にフと捉えられていく自分自身がここに在ります。けれど17年前の自分自身に、そして社会の小さな片隅、北島田でお弁当作りを始めたあの頃の僕達に、今の街の中の喫茶店あつぷるやApple Sweets 工房の風景は到底想像できたものではありませんでした。「流れ去る時の日々は時計の中にはなく、私達の心とからだのなかにある…」だからこそ僕達は、生きているという手ざわりのある実感をとおして、この今を17年の歴史とつなぎあわせることができる…」そんな事さえフと想いゆくのです。

ひとりの人間が何者かを知るために「学校はどこ」「職場はどこ」と繰り返し自問するこの時代にあって、あたりまえに学ぶこともあたりまえに働くことも制限された障害や病を持つ人達がうごめく様に北島田僕の目の前に在りました。「働きたいんや」「自分達のことを発信して行きたいんや」「病気になったけど生きとってでもええんだろ山下さん」「自分はいったい何なのか」「なぜこの街はこんなに遠いところにあるのか」うごめく様に集い来る「彼ら」はその問いに答える言葉を持ち合わせてはいませんでした。鳴門市から30分以上もの距離を超えて毎日集い来ていた彼がこんな風に呟きました。「何か自分達で始められる事はないだろうか」「病気や障害を持ってしまったけど僕達にだって出来る事が何かあるはず」若い頃しらすうなぎの漁を生業としていた中年の彼が続きます。「働いて金儲けて一回でええけんええ暮らしたい、しらすうなぎの作業所するで、まだ全国にも絶対ないはずだよ。」「このまま歳を取って年寄りになった時、病院か施設かしか無い、そんな寂しいのは嫌やわ」

長い長い沈黙の後、「弁当を作ろう、お弁当を作ってお弁当の帯にメッセージを書いて…それをたくさんの人に届けよう」あつぷるのお弁当が生まれた瞬間でした。「施設か病院か…」もし、彼らの生きてきた人生が、彼らにこんな答えしか用意できなかったとしたら、もし彼らの誠実に生きようとする日々が、この街でひとりの市民としてあたりまえに生きていくことを拒否されたところで繰り返されていたとしたら、それは彼らの問題ではなく、この街全体の問題ではないだろうか…そんな事が脳裏をかすめた瞬間、今日へとつながる一つの方位が定められたのでした。「みんなで弁当屋でもするか」短くも重たい会話の断片をつなぎあわせた時…HEARTLANDが生まれた瞬間でした。障害者自立支援法がその名称を変え一部改正となった障害者総合支援法がこの4月から施行されました。法やサービス体系は時代を投影させながら変わりゆくものであったとしても、障害や病を抱え持つ人達の問題をどう自分自身の生活の問題として位置づけていくのか…今日を生きる私達社会の問題としてその命題は変わる事なく問い続けられて行くはずです。「障害者があたりまえの市民として暮らせる給料や生活保障を…障害のある人もない人も共に担い、共に働く場づくりを…」華やぐように映りゆく街の中の喫茶店あつぷるやApple Sweets 工房を眺めながら新しいステージへと対峙してゆく今日の日と未来への模索を確認する初夏の頃です。

## お盆期間の営業について

お盆期間中の8/11(金)8/12(土)はランチ、お弁当、スイーツともに通常どおり販売いたします。お待ちしております。

**8/26日**(土)は**臨時休業**とさせていただきます。よろしく願いいたします。



## 5のつく日は 月に一度の55ランチ

街の中の喫茶店あつぷるでは、月に一度、5のつく日は、通常750円の日替わりランチが、**550**円とお得になります。今月は**8月25日**(金)を予定しています。無くなり次第終了となります。是非お越しください。

街の中の喫茶店あつぷる・あつぷるスイーツ工房

営業日 **水・木・金・土** (休業日 月・火・日)

水曜生スイーツ休み ※ 営業日の祝日は営業しています。

営業時間 **11:00~15:00**

ランチ **11:30~無くなり次第終了**

Tel : **088-679-8225** 予約可能

社会福祉法人ハートランド  
ホームページQR

